

# 本展初披露の《平成しんちう屋》をはじめ、代表作約200点を一挙公開

## 展覧会の見どころ

新作となるインスタレーション作品《平成しんちう屋》を本展で初公開します。  
今回の新作は日本の金魚の競りや香港にある金魚街からインスピレーションを受け、作品が構成されています。  
作品の中には、金魚の競りで使用されるカンコと呼ばれる木箱の舟や袋詰めされた金魚を想像させるものが並び、  
独特の世界が生まれます。ぜひ展覧会場で、深堀金魚の世界を体験してください。



## しんちう屋とは？

今回の展覧会名にもはっている「しんちう屋」とは、江戸時代に上野・池の端にあった金魚屋の名前です。井原西鶴という人が書いた浮世草子『西鶴置土産』にしんちう(真鍮)屋が登場します。そこには、庭に生簀を7、80個も並べてあったことや池の水もきれいいで浮き藻の間を金魚が泳ぐ姿が美しいとあります。当時、江戸では金魚がブームになっており、金魚屋が多く存在していましたが、しんちう屋はその中でも大きな金魚屋でした。

## 金魚救いー金魚との出会い

深堀さんが金魚をモチーフに作品を制作するようになったのは、15年ほど前にさかのぼります。制作がうまくいかず、「もう美術なんてやめてしまおう。」と思っていた時、自室で飼っていた金魚の水槽が目にとります。夏祭りですくってきた金魚を飼っていましたが、ちゃんと世話をしていなかったため、水は汚れ、あまりきれいとは言えない状態でした。しかし、ふと思いつき水槽の蓋を開けて中を覗いてみると、妖しく光る背中がとても美しく見えたのです。これだと思った深堀さんは、試行錯誤しながらもずっと金魚を描き続け、今につながります。深堀さんは、この出来事を「金魚救い」と呼んで大切にしています。

## 金魚酒が生まれるまで

深堀さんの作品は、どのように生まれているのでしょうか？  
どのように制作しているのか簡単に紹介します。

1

1 升に樹脂を薄く流し込み、樹脂を固めます。

2

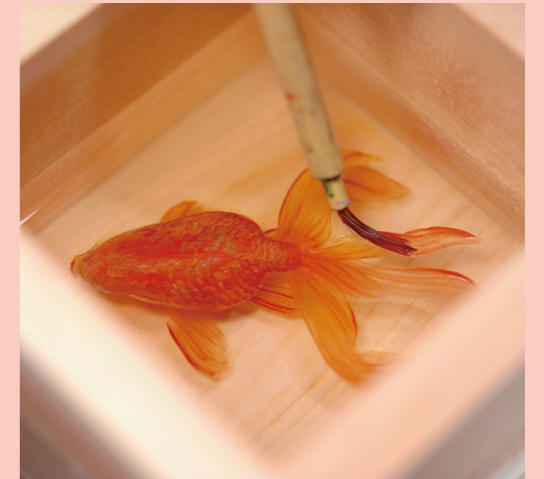
2 樹脂が固まったら、アクリル絵具で金魚の体の一部を描いていきます。

3

3 さらに樹脂を流し込み、固まったら、次の層に描いていきます。

4

4 これを何層も繰り返して重ねていくと、作品が完成します。



樹脂が固まって次の層が描けるようになるには2日程かかります。また、使用している樹脂は寒くなると気泡が入ってしまうため、常にあたためておく必要があります。深堀さんの作品は、上から見ると本物さながらの金魚ですが、横から見ると線の重なりしか見えません。時間をかけて平面の層を重ねていくことで、立体的な金魚が生まれています。

## 会期中のイベント

### ワークショップ1

#### 金魚水墨館ー金魚を描いて泳がせよう！

日時 7月21日(土)10:00~12:00  
場所 テマホール 対象 小学生以上  
※要事前申込

### ワークショップ2

#### ジェルキャンドルに金魚を泳がせよう！

日時 8月11日(土・祝)10:00~13:00  
場所 アトリエ 対象 親子(小・中学生)  
※要事前申込

### ライブペインティング

日時 7月7日(土)14:00~  
(30分程度を予定)  
場所 テマホール ※申込不要、無料

### 講演会

日時 7月21日(土)14:00~15:30  
場所 ミュージアムホール  
※申込不要(先着150名)、無料

### 公開制作

新作《平成しんちう屋》内で公開制作を行います。  
日時 7月29日(日)14:00~  
(3時間程度を予定)  
場所 展示室 | ※申込不要、要観覧券

### 作家による作品解説ツアー

作家と一緒に展示室をまわって作品の解説を行います。  
日時 8月11日(土・祝)14:00~14:40  
場所 展示室 | 入口にお集まりください。  
※申込不要、要観覧券

※イベントについての詳細はホームページをご確認ください。